

## 平成24年度第4回産業衛生技術部会企画委員会 議事録

日時：平成25年2月23日(土) 11時～13時半

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス51号館12階 環境資源工学科会議室

出席（敬称略）：加藤隆康、田中茂、橋本晴男、中明賢二、名古屋俊士、落合孝則、近藤充輔、  
原邦夫、大西明宏、中村憲司、宮内博幸、村田克（文責）

配布資料1：第16回産業衛生技術専門研修会案

- 〃 2：平成25年度産業衛生技術フォーラム案
- 〃 3：第23回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会開催概要
- 〃 4：過去の部会大会および専門研修会、産業衛生技術フォーラム（平成21年～）
- 〃 5：日本産業衛生学会産業衛生技術部会規程（平成17年4月～）

### 議事

#### 1. 技術部会行事について

- a. 第86回日本産業衛生学会 (<http://jsoh86.umin.jp>、企画運営委員長＝谷川武・愛媛大学医学部教授、平成25年5月14日(火)～17日(金)、ひめぎんホール(愛知県松山市道後町))
- ・平成25年度第1回産業衛生技術部会幹事会  
5月16日(木) 12:00～13:00 ひめぎんホール別館1階（第9会場、48席）
  - ・第16回産業衛生技術専門研修会  
5月16日(木) 13:00～15:00 ひめぎんホール別館1階（第10会場、70席）  
テーマ案「個人ばく露測定検討委員会 中間報告」→資料1の通りで進める。
  - ・産業衛生技術フォーラム  
5月17日(金) 14:30～16:30 ひめぎんホール3階（第6会場、180席）  
テーマ案「高齢労働者の安全衛生を考える」→”ロコモティブ”などの名称を取り入れてテーマ名を再考し、資料2の通りの内容で進める。
  - ・産業衛生技術部会 総会  
5月17日(金) 16:30～17:30 ひめぎんホール3階（同上）
- b. 第23回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会  
(平成25年9月25日(水)～28日(土)、名古屋国際会議場)との同時開催
- ・平成25年度第2回産業衛生技術部会幹事会  
9月27日(金) 13時～14時（案）
  - ・第17回産業衛生技術専門研修会  
9月26日(木) 18時～20時（案）→27日(金)午前中への変更を協議会実行委員会へ依頼する。  
テーマ案：化学物質管理  
演題・講師案：昨今の動向や法改正について＝武田繁夫先生（中災防）、  
企業での実際例＝中原浩彦先生（EMGマーケティング）→各氏へ依頼する。
  - ・第22回産業衛生技術部会大会  
9月27日(金) 14時～17時（案）  
テーマ例：大気汚染、PM2.5、海外勤務者、マスク、CO対策、プラント事故、サービス産業、問題解決型安全衛生、喫煙対策など  
→テーマ案：企業における喫煙対策の実際、講師案：大和先生（禁煙）、産衛GPS投稿者（喫煙対策）、名古屋先生（測定）で検討を進める。

#### 2. 中明賞（産業衛生技術部会奨励賞）の授賞について

原 邦夫（帝京平成大）氏へ授与することとする（授賞式は5月の部会総会冒頭）。

(参考) これまでの中明賞受賞者：

2005年＝宮内 博幸、2006年＝篠宮 真樹・山野 優子、2007年＝大藪 貴子・村田 克、  
2008年＝関向 和明・長谷川 紀子、2009年＝竹内 靖人・中村 亜衣、2010年＝落合 孝則・對木 博一、  
2011年＝今井 常彦・城 憲秀、2012年＝大西 明宏・進藤 拓

### 3. 部会細則（現行の技術部会規程＝資料5）

現行は部会ごとに分かれて規程を定めているが、新法人移行に伴い学会が一体となる活動が求められることもあり、統一した「部会に関する細則」を新定款の下に定めることになっている。→部会長会議（4月に開催予定）と連携し、具体案が出たら委員会に諮る。

### 4. その他

a. 9月28日午前の産業医・産業看護全国協議会（名古屋国際会議場）メインシンポジウム企画案「大討論会 次代の主役は？衛生管理者vs産業看護職」への衛生管理者側演者の推薦の件 → 對木博一先生（ニコン）を推薦する。

b. (産衛学会)法制度検討委員会報告：現行法への問題提起や提言を取りまとめており、その報告書がドラフトの段階に来た。閲覧希望があれば応じられる（橋本先生）。

c. (産衛学会)生涯教育委員会報告：GPS (Good Practice Samples) の表彰課題が決まった。奨励賞3件中2件が技術部会関係であった。

d. (技術部会)個人ばく露測定に関する委員会：活動内容を積極的に発信するよう大前理事長からも要請があった。→まず委員会の紹介とこれまでの議事要旨を産衛誌や部会HPへ公開する。最終的な報告書は理事会へも提出する。

e. (技術部会)広報委員会：講演会やシンポジウムの記録を部会HPへ公開する際に、各演者からの資料など収集に手間を要している。→各演者に資料提出要請する文書などを検討。

### f. 平成25年度企画委員会および幹事会・総会の予定

平成25年度以降、監督省庁への提出期限変更のため次年度予算書の提出時期が毎年11月末頃までに変更される。これに関わり以下の通りに予定する。（委員会当日資料では誤って9月も部会総会実施としていたのを訂正し、その他少し修正しました。）

4月27日<企画委> 学会行事進捗確認、前年度報告・決算、今年度計画・予算

5月16・17日<幹事会・総会> 前年度報告・決算、今年度計画・予算

8月<企画委> 9月行事進捗確認、次年度予算案

9月<幹事会> 次年度予算案

11～12月<企画委> 今年度事業報告、決算等

'14年2月<企画委> 次年度行事など計画、中明賞決定、予算・決算等

### g. 次回企画委員会開催予定

日時：平成25年4月27日(土) 11時～13時

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス51号館12階 環境資源工学科会議室

以上

2013年日本産業衛生学会、産業衛生技術専門研修会（案）

個人ばく露測定<sup>1</sup>の作業場での活用について  
—産業衛生技術部会個人ばく露測定検討委員会<sup>2</sup>の中間報告—

（作成 橋本）

スケジュール：各30分程度+質問30分

留意点：「研修会」なので産業医、保健職、作業環境測定士などにもわかり易いように、個人ばく露測定<sup>1</sup>の大きな意義と特徴、進め方のイメージを理解していただく。全体像や進め方の要点を説明し、あまりテクニカルな細部に入りすぎないようにする。

1. 山田さん

趣旨：個人ばく露測定に関する近年の国内の動きと中災防で検討した方法（厚生労働省より受託）の骨子を説明する。

- 中災防での検討の背景（国の動向含む）
- 中災防での検討結果概要（2010-11年度）
- 個人ばく露測定法：中災防で検討した方法の骨子
- 2012年の研修会で出た主な質問など

2. 橋本

趣旨：委員会での検討内容を中間報告する。特に、従来と概念や考え方が異なる点を強調する。

- 技術部会個人ばく露測定委員会の概要（目的、進め方等）→綱領に準拠
- （個人ばく露測定<sup>1</sup>の意義、作業環境測定との比較も含めても良い）
- 現在までの検討経過の紹介
- 検討・確定した事項全般紹介
- その重点項目
  - 全体フローと測定（作業環境測定との相違）、対策の優先順
- 検討中事項3点程度概要紹介
  - 重点項目：管理区分の細分化、8時間測定の短時間化（3月次第）

3. 中原さん

趣旨：上記検討事項の中で、重要点に関して、東燃ゼネラル石油グループでの実情・データを引きながら、欧米のやり方のポイントを具体的に紹介する。

- （イントロとして、TGグループの方法の概要）
- 事前調査（定性評価）の方法と有効性（データ）
- SEGの選択法（データ?）
- 柔軟な（専門家の判断による）実施方法：サンプル数の実情（データ）、簡易測定<sup>2</sup>の活用、再評価方法・頻度
- インダストリアルハイジニストの役割、
- など

平成25年度 産業衛生技術フォーラム（案）

平成25年2月23日  
安衛研・大西明宏

全体テーマ：高年齢労働者の安全衛生を考える  
講師および各タイトル（仮）

- （1）高年齢労働者の転倒災害防止に有効な手段とは（仮）  
～身体機能テストの結果，労災統計から見えてきたこと～  
労働安全衛生総合研究所 大西 明宏
- （2）高年齢労働者の転倒予防・身体機能改善プログラム（仮）  
労働科学研究所 川越 隆
- （3）体力低下に伴う労働災害の予防についての包括的取り組み（仮）  
～転倒予防・筋骨格系疾患・復職支援～  
JFEスチール(株)西日本製鉄所 乍 智之
- （4）製鉄所における高年齢労働者の作業管理（仮）  
新日鉄住金(株)和歌山製鉄所 岩根 幹能

※ 発表時間は1名あたり20分の予定

以上

第23回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会 <http://square.umin.ac.jp/ncopn23/>

テーマ 連携、そして発展! 産業保健の未来を問う

会期 平成25年9月25日(水)～28日(土)

会場 名古屋国際会議場 〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

(四部会合同セミナー会場: 愛知教育大学 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1)

主催

(社) 日本産業衛生学会 東海地方会

(社) 日本産業衛生学会 産業医部会

(社) 日本産業衛生学会 産業看護部会

(社) 日本産業衛生学会 産業歯科保健部会

合同開催

(社) 日本産業衛生学会 産業衛生技術部会大会

共催 社団法人 愛知県医師会

後援 愛知産業保健推進センター

企画運営委員長: 齊藤政彦 (大同特殊鋼 星崎診療所)

企画運営副委員長:

岩田全充 (トヨタ自動車(株)安全健康推進部)

杉本日出子 ((株)ジェイテクト 安全衛生管理部)

城憲秀 (中部大学生命健康科学部保健看護学科)

原康二 (三河歯科衛生専門学校)

運営実行委員長: 石川浩二 (三菱重工(株)大江西健康管理科)

運営実行副委員長:

上原正道 (ブラザー工業(株)健康管理センター)

内野文吾 (ヤマハ発動機(株)健康推進センター)

中元健吾 (日本ガイシ(株)安全衛生グループ)

-----  
参考: 全国協議会開催予定地方会

2014年 北陸地方会

2015年 中国地方会

2016年 近畿地方会

過去の部会大会および専門研修会、産業衛生技術フォーラム（平成21年～）

部会大会

- 第18回「メンタルヘルスのリスクコミュニケーション」平成21年12月12日(土) 13時-16時 早大西早稲田キャンパス  
新しい職場復帰の考え方=森崎美奈子(帝京平成大) 新しいうつ病-長期休業者の事例-=森口修三(三菱電機) どうする企業のリスクマネジメント-自殺の危機介入を中心に-=松井知子(杏林大)
- 第19回「産業衛生分野における現在の人間工学の役割」平成23年1月22日(土) 13時-16時 早大西早稲田キャンパス  
労働衛生における人間工学的課題=城内博(日大) 椅子作りと人間工学=八木佳子(イトーキ) 高年齢労働者の転倒災害と防止対策=大西明宏(安衛研) safety management におけるヒューマンファクター=小松原明哲(早大)
- 第20回「産業衛生技術の10年とこれから」平成23年12月10日(土) 13時-16時 早大西早稲田キャンパス  
産業衛生技術の10年とこれから=中明賢二(麻布大) 第三次産業の安全衛生の現状と対策=宮内博幸(産業保健協会) 呼吸用保護具の防護性能と実際の使用=粉川昇市(重松製作所) 呼吸用保護具の防護性能と実際の使用 ~企業における実際=中原浩彦(エクソンモービル) 放射線、放射能の測定と管理=山田憲一(中災防)
- 第21回「改めて腰痛を考えよう」平成24年11月23日(金・祝) 14時-17時 東京工科大 蒲田キャンパス  
福祉・医療職場における作業関連性運動器障害の現状と課題=埴田和史(滋賀医大) 腰部負担軽減を目的とした継手付き体幹装具Trunk Solutionの開発と評価=勝平純司(国際医療福祉大) 腰痛に対する新しいエクササイズ=齋藤昭彦(杏林大)

専門研修会

- 第8回：平成21年5月21日(木) 16時-17時半 福岡国際会議場  
職業性熱中症予防対策と産業衛生技術=澤田晋一(安衛研) 日本産業衛生学会の全身振動に関する許容基準の改定をめぐって=西山勝夫(滋賀医大)
- 第9回：平成21年12月12日(土) 10時半-12時 早大西早稲田キャンパス  
新しいタイプのうつ-対応に困る最近の傾向-=廣川進(大正大)
- 第10回：平成22年5月27日(木) 15時半-17時 福井県国際交流会館  
職場における化学物質管理の今後の動向について =名古屋俊士(早大)

- 第11回：平成23年1月22日(土) 10時-11時半 早大西早稲田キャンパス  
人間工学=大橋信夫(労研)
- 第12回：平成23年5月19日(木) 14:45-16:55 シーサイドホテル芝弥生  
企業経営リスクと産業衛生=加藤隆康(グッドライフデザイン)
- 第13回：平成23年12月10日(土) 10時-12時 早大西早稲田キャンパス  
安全衛生の投資対効果=小澤正彦(損保ジャパン)
- 第14回：平成24年5月31日(木) 9時-11時 名古屋国際会議場  
作業用履物に適した安全靴・プロテクティブスニーカーの基礎=林辰男(シモン) 医療従事者と靴のあり方=笠井一治(ミドリ安全) 転び災害防止と安全靴・作業靴の耐滑性能=永田久雄(労研)
- 第15回：平成24年11月24日(土) 9時半-11時半 東京工科大 蒲田キャンパス  
実用上のガイドとなる個人ばく露測定の方法の検討について=橋本晴男 (EMGマーケティング) 有機溶剤職場における胆管癌発症について=熊谷信二(産医大)

産業衛生技術フォーラム

- 平成21年5月22日(金) 13時半-15時半 福岡国際会議場「労働者の高齢化と安全衛生管理 どのように対応すべきか 産業衛生技術者の役割」  
産業医の立場から=土肥誠太郎(三井化学) 研究者の立場から=北島洋樹(労研) 衛生管理者の立場から=成清雄一(TOTO)
- 平成22年5月28日(金) 14時半-17時 福井県国際交流会館「化学的環境-リスク管理とリスク軽減-」  
ホルムアルデヒドを含む化学物質のリスク管理=河合俊夫(中災防大阪) 化学物質と神経障害=松岡雅人(東京女医大) 化学的環境のリスク軽減=谷井秀治(金沢大)
- 平成23年5月20日(金) 15時-17時 ホテルアジュール竹芝「企業経営リスクとしての産業衛生を考える」=小澤正彦(損害保険ジャパン)、安福慎一(新日鐵)、原邦夫(帝京平成大)、野口和彦(三菱総研)
- 平成24年6月2日(土)13:40-16時半 名古屋国際会議場「産業衛生技術者の役割と期待」  
より合理的な化学物質管理に向けて=半田有通(厚生労働省) 労働衛生管理における衛生管理者の役割-産業医の立場から-=中元健吾(日本ガイシ) 除染作業者の曝露リスク=村田克(早大)

日本産業衛生学会産業衛生技術部会規程（平成17年4月～）

■ 第1章 総則

（産業衛生技術部会の設置および規程）

第1条

学会定款第36条により、社団法人日本産業衛生学会内に産業衛生技術部会（以下本部会という）を設置し、この規程により運営する。なお、本部会の英語名をOccupational Hygiene & Ergonomicsとする。

（本部会の目的）

第2条

本部会は、産業衛生分野における諸技術の向上、発展をはかることにより、産業衛生学の進歩に資することを目的とする。

（本部会の事業）

第3条

本部会は前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

1. 産業衛生技術に関する研究集会の開催
2. 産業衛生技術に関する調査研究
3. 産業衛生技術に関する教育研修
4. 産業衛生技術に関する資料の収集、編纂
5. その他本部会の目的達成に必要な事業

■ 第2章 構成および組織

（部会員）

第4条

部会員は日本産業衛生学会会員のうち、本部会の目的に賛同する者で、所定の参加手続きを終えた者とする。

（幹事会）

第5条

本部会を運営するため、幹事会をおく。

2. 幹事会は次の幹事により構成する。  
学会理事 1名以上  
部会員 若干名
3. 幹事の選任は、地方会長が部会員に諮って推薦し、理事長が委嘱する。
4. 幹事の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

（部会長、副部会長）

第6条

部会長は幹事の推薦、副部会長は部会長の指名とし、理事長が委嘱する。

■ 第3章 職務

（部会長、副部会長の職務）

第7条

部会長は部会を代表し、部会の会務を統括する。

2. 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代行する。

（幹事の職務）

第8条

幹事は、部会の会務を分担する。

■ 第4章 会議および報告等

(部会総会)

第9条

部会総会は、部会長が招集し、毎年1回開催する。

2. 部会総会の議長は、部会長とする。

(幹事会)

第10条

幹事会は、毎年2回以上開催する。

2. 幹事会の議長は、部会長とする。

(事業計画の提出)

第11条

部会長は、部会の事業計画案を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

(報告および意見具申)

第12条

部会長は、年度ごとに部会の事業、会計について理事会に報告する。

2. 部会長は、部会の審議事項をとりまとめ、理事会に報告するとともに、必要な意見具申を行なう。

■ 第5章 会計

(本部会の経費)

第13条

本部会の経費は、学会からの交付金ならびに研究集会の参加費等をもってこれにあてる。

(会計年度)

第14条

本部会の会計年度は、毎年3月1日に始まり翌年2月末日に終わる。

■ 第6章 事務局、規程の改正

(事務局)

第15条

本部会の事務局は、日本産業衛生学会事務局内におく。

(規程の改正)

第16条

本規程の改正は、部会総会の議を経たのち、理事会に提出し、その承認を得なければならない。

■ 付則

1. この規程は、平成14年2月23日から施行する。
2. 本規程の一部を変更し、平成17年4月24日より施行する。
3. 第15条の規定に関わらず、当分の間、事務局を財団法人労働科学研究所におく。